

1 日時

平成28年7月19日（火）午後2時から午後3時35分まで

2 開催場所

柏市布施1-3
柏市立柏病院

3 出席者

(1) 委員

今井秀雄委員，小畑昌司委員，坂巻勝委員，竹之内明委員，寺本妙子委員，
野坂俊壽委員，真家年江委員及び松清智洋委員

(2) 事務局

ア 柏市

佐藤保健福祉部理事，沖本医療公社管理課長，阿部主幹，五十嵐主査及び
秦野主任

イ 公益財団法人柏市医療公社

吉田事務部長，上野業務部長及び仲事務部企画課課長補佐

4 配付資料

(1) 次第

(2) 病院施設見学会資料

(3) 柏市立柏病院パンフレット

(4) 柏市立介護老人保健施設はみんぐパンフレット

5 議事概要

(1) 開会

(2) 議事

ア 院長挨拶

イ スケジュール説明・随行者紹介（事務局）

ウ 施設概要・見学時の注意説明（事務局）

エ 施設見学

(ア) 柏市立柏病院

(イ) 柏市立介護老人保健施設はみんぐ

(ウ) 柏市立柏病院敷地

オ 各委員からの意見・感想

【意見・感想】

(委員)

市立病院は、患者の動線が複雑になっていると感じた。建物の随所に見受けられる雨漏りの跡と、トイレ等の扉が重いことが気になる。利用者目線でみると、もう少し軽いものが望ましいと思った。また、車椅子の利用者は、尿検査の際に複雑な動線になるなど、利用する側の動線が気になるところがある。

市立病院スタッフの方は、廊下で擦れ違う際に挨拶していただき、良い印象である。

全体的には、やはり建物が古く天井が低いので、圧迫感を感じた。今の医療機器は高さがあり、大型のものが多いため、新しい機器、新しい医療ニーズに対応するのは難しいと感じた。

はみんぐは、季節に沿った掲示物が多く壁面に飾られているのを見て、スタッフの方が頑張っているのだと思った。

(委員)

柏市在住70年であるが、今日初めて来た。事前資料に書かれていた現状（「柏市立柏病院中期構想」（平成25年3月策定）で示した施設・設備面の課題）が、今回の視察で目にしみついた。はみんぐについては、入所者に万が一のことがあったら市立病院と連携すると聞いた。一般の介護施設は、医師はいるが病院が隣接していることは建設の際の条件ではないと思うので、はみんぐは非常に恵まれていると感じた。

(委員)

私も70年近く柏市に住んでいる。この場所が結核療養所であった時から知っており、それが国立病院として建物が新しくなったときは、とても良い病院だと感じていた。しかし、今見ると、建物の老朽化が進んでいると感じた。また、ちょうど今日地震があったが、資料を見てもどの程度の地震に耐えられるのかわからない部分もあり、地震は怖いので、早急に建替えが必要であると感じた。また、市立病院の利用者や、はみんぐのボランティアの方など知り合いがたくさんおり、身近に感じるため、この場所に病院があるのはとても良いと感じた。

(委員)

短い時間だったので、一端しか垣間見ることしかできなかったと思うが、これから議論を深めていく中で、今日の見学会から感じたご意見もいただければと思っている。

(委員)

以前、市立病院を見た時の第一印象は、皆さんよくここで頑張られているな、というものであった。今日見せていただいて、尚更この気持ちが強くなった。よくこの古い施設で、医師の先生方が闘っていらっしゃるな、と感銘した。病院の建物を建て増ししているということは、つぎはぎの状態だから、使いにくくなっていくのは当たり前の話である。なかには第4期、第5期と建物を継ぎ足していくこともあり、そうすると動線が長くなり、使いにくくなる。当初予定していなかったものが出てくる。予定していないということは、建物が使いにくくなるという流れは当然のことである。今後、施設をどのようにしていくのかを考えていきたい。先生方の闘っている姿を見させていただき、柏市民として感謝している。

(委員)

ナースステーションの位置など、最近の新しい病院との違いを感じた。ナースステーションから遠い場所に個室があることの問題点があるのかもしれないが、一方で、一直線で見通しの良さもあると思う。一長一短があり、当時の建築計画はこのようなものだったのかと歴史を感じた。

市立病院もはみんぐもリハビリ施設が少ないように感じた。その辺が充実できるような施設計画が必要であろう。院長から雨漏りの話があったが、築40年程度の鉄筋コンクリート造で雨漏りがあると施工の問題を疑う。築40年程度の鉄筋コンクリート造として見れば、まだもつはずだが、設備的な面や、廊下の狭さなどを考えるとそろそろ限界かと思った。

ただ、建て替えといっても市立病院が何を求められているかということによってくると思う。その辺を見極めながら将来像を描いていかないと、例えば今以上を求めれば当然足りなくなるので、その辺を今後分科会で追及していく必要があるのかなと、そこで見極めて新たな市立病院像をつくってそれに適した機能・規模が求められるのかと思った。

(委員)

色々課題があることは事前資料でお知らせいただいたが、今日実際見せていただいて本当に大変そうだなと感じた。特に、1度受診させていただいたことがあるが、このエリアに住んでいるわけではないので、通うのには不便だという感がぬぐえない、交通アクセスがあまりよくないということと、働かされているスタッフの方々が大変だろうなと強く感じた。例えば子供がいる方は、保育施設を充実させること（24時間保育・病児保育など）が不可欠な時代だと思うし、また、医師の宿舎の利用率がゼロ、看護師宿舎もあまり利用されていないことは、これらの宿舎が利用しづらいということだと思う。建物同士が繋がっておらず離れている。

患者のニーズはもちろんだが、医療を受ける側と提供する側と双方にとってよいものであって欲しいと思った。

(委員)

今日皆さんに来ていただき、スタッフが一生懸命頑張っているところや足りないところなどを含めて現場を見ていただき、非常に感謝している。

皆さん色々なご意見を持たれたと思うので、それを参考に今後の議論を重ねていただければありがたい。

【質問・回答】

(委員)

公共交通機関のバスの本数はどれくらいか。

(事務局)

平均して1時間に4～5本程度である。

(事務局)

委員の御意見の中で、宿舎の話があったので補足をさせていただく。現在、医師宿舎も看護宿舎も老朽化している為、民間のアパート・マンションを公益財団法人柏市医療公社が賃貸借契約をして、それを職員に提供している。市立病院よりもう少し柏駅に近い場所などがあり、職員にそれぞれ選んでもらっている。

(委員)

保育園への入園については、スタッフの要望に全て応えられているか。

(事務局)

医師と看護師の子供の保育が主で、検査技師や事務職員の子供は現在受けていない。

(委員)

それは、保育の希望がないということか。

(事務局)

定員の関係である。保育室の構造が、0～5歳児までの混合保育を出来かねる状況で、また、病後児の場合は隔離する部屋がなければならないが、確保できていない。

なお、夜必ず子供を預けているわけではなく、家庭で家族が子供の面倒を見てくれる場合もある。要望があった場合のみ、委託している保育園の職員が泊まって保育園児の面倒をみているが、毎日ではない。

(委員)

はみんなの職員の子供は受けていないのか。

(事務局)

はみんなの看護師1名か2名が子供を預けている。

(委員)

それ以外に要望はないのか。

(事務局)

今のところ要望はない。しかし、通常、介護施設の場合だと夜勤の介護士が子供を夜預かってもらいたいという要望に対応できていないことが問題になるが、現在、そのような要望は聞いていない為、職員がそれぞれの方法で対応しているのだと思われる。

施設的に充実させれば、それなりの要望はあると思われる。

(委員)

私の方には要望がきている。検査技師・レントゲン技師からは、保育室を広げて子供を預けられるようにして欲しいという要望を聞いている。

(委員)

医師と看護師のみ預けられるということは不公平感を感じる。

(委員)

どこの施設もそのようになってしまう。意外にそのような施設は多い。

(3) 閉会

次回開催日時

平成28年8月29日(月)午後3時から

以 上